いはき

第十九號

每月三回　五日　十五日　廿五日　發行
定價一部金一錢五厘外ニ郵税五厘
郵券代用一割增
廣告料五號活字十九字詰一行金十五錢
回數行數ニヨリ割引ス
發行所　福島縣石城郡平町字白銀町二番地　いはき社
編輯人高木觀雄　發行人吉田禮次郎　印刷人高城寛雄

言論

仙臺に於ける石城人士の發展

在仙　紫花生

仙臺市が商工業に於て東北の主位を占むる事は既に認知せらるゝ處なりと雖亦學府として重要地たる事は輓近人の注意する處となれり在來の二文部直轄學校の外昨年更に高等工業學校の新設あり東北分科大學として理科大學設置は既に仙臺市に選定され又醫科大學設立の議も有りと聞く是れ學究具眼者の風紀衛生經濟等各方面に於て仙臺市が學府たるの價値を認識せるの結果ならざる可らず

我が石城郡も先輩有識者の拮据經營以て磐城中學創立せられて以來遊學生を出す年と共に滋く其の仙臺に在るもの亦百を數ふるは今日の有樣なれば愈々大學にして開校さるゝ曉には培々遊學生を增多せしむるは必然の趨勢なり剩へ石城郡人にして兵たる者概ね仙臺の地に在り即石城郡壯丁は二年乃至三年間青葉城頭旭旗を仰ぎつゝ歩を練り武を鍛へ或は砲を裝し馬に跨り身神の練磨を成すは此の地に在り於茲乎愈々益々石城郡人にとりて仙臺の地は第二の故鄕たらずんば有る可らず

仰々かくも直接關係のある仙臺の地に於ける石城郡人の擧止如何は推して郡の文化激觀て醜惡指彈す可きものあらば則郡の恥辱なるを思ひ曩に大須賀筠軒先生江尻數彌吉田龍男氏等愛鄕の士相與に謀り石城鄕友俱樂部なるものを設けて一は郡人學生の保護風紀監督に任じ一は以て同鄕人の一堂に會し交情を温むるの機關とせられし事は一度此の地に學び身を兵籍に置きし諸彥は勿論地方有識者たる者の均しく認知する處なり

遊學生の狀況に關しては各地大同小異なる可く要するに一度笈を負ひ故鄕を後にするや縁るに知己縁戚なく勢ひ寄宿舍又は下宿に投せざる可らず然るに仙臺は比較的下宿屋の完備せるもの多からず較もして奸手段に陷り易き傾向あり雖然此等欠点は學籍だに定まれば各校規の支配を受くるを以て避け得べけれども其の最苦痛とする處は選拔試驗等の爲出仙せるに際し各地方よりも均しく受驗生の集るもの多く下宿屋の雜沓は到底勉學を許す可からざるに在り故に完全なる下宿の欠乏を補はんが爲め俱樂的建築物にして一時學生の宿泊をも兼ぬ可きものならんには特に受驗生に益する處多大なる可きなり又軍人は兵營生活の單純に倦き一週一度の日曜を待ち侘びて日本式盤のごろ寢が慕はしさに市內下宿を眠るを常とす然るに市內下宿なるものは貧民若しくは奸策者により營まるゝが多くして素朴なる同鄕人の血を吸ふもの尠からず實に我が石城鄕友俱樂部なるものは此等同鄕人の不便を救はんが爲に生れたるものにして即前記諸氏は茲に見る處あり早くも俱樂部創立に盡瘁されしものなりき盍し石城郡人の德育將又團結心に於て他の以て龜鑑と爲すに到れるは所以なきに非るなり

かくも愛鄕の念に倚り在鄕諸彥の熱誠に依りて成立せる俱樂部も諸點に於て尚は完備の域に達せざるを歎せしめつゝありし折柄客歳端なくも俱樂部は類燒の厄に逢ひ娛樂品其他悉く灰燼に歸し畢りぬるは痛恨に堪えざる所とす雖然余は業に信じたりき此の事必や俱樂部完成上何等の阻碍を釀す事無く不日より完備せる俱樂部の再生み出さる可きを蓋し在仙同鄕人の愛鄕心と在鄕有識者の熱烈なる同情心とを知ればなり果せる哉在仙の諸士大須賀先生江尻數彌氏を始とし金成金彥氏等は力を協せ汎く同鄕有志に訴へ學生の宿泊をも兼ね得可き而も完備せる俱樂部の新築に日夜東奔西走せらるゝ矣願ふに我が石城人士にして此地に在るもの元の高等學校教授あり判檢事あり技師あり將校あり實業界に成効せるの人亦多し以て我が郡人士の將來の發展見る可きものあらん而も此等諸先輩にして吾人後進者を導く事上の如し盍し俱樂部新築の此の擧は在鄕の育英會と相並びて郡の二大美擧と稱して可なりかくてこそ石城の地有爲の士輩出すべき疑を容れず

噫同情の念に富み愛鄕の情に厚き我が石城鄕有志諸賢よ希くは在仙俱樂部設立者の思志の存する所を酌み同鄕人の爲め鄕友俱樂部新築の趣旨を賛せらるゝと共に此の有益にして剴切なる俱樂部の設立をして一日も早く完成せしめんと欲せば應分の寄金に吝ならざる事を敢て微意を披瀝して高廣を冒瀆す妄言多謝

讀者論壇

△貧民の立つ瀨

一檜

酒、煙草の値上決行せられて日尚淺きに、砂糖、石油等吾人が生活上の必要品にまで重き租税を賦課せられ、日に月に生活難を增し行く者は吾人貧民なり、吾人は境遇の是非なきを諦らめ、無智無力にして生存競爭場裡の劣敗者たるは餘儀なき次第なるも貧に泣く妻子の現在と將來とを思へば、實に血淚の滂沱たるを禁じ敢へず、ア、天下又吾人に同情ある志士は無きか。

△奮慨吐言

平町生

吾人は我鄕風紀の腐敗を見聞し概嘆之を久しうす、其宴會に見よ其集會を見よ、斯くてもなほ紳士の態度を失はずと云ひ得るか鳴呼此の腐敗墮落の種子を下したる者は誰ぞ、吾人は之を先輩紳士諸君に歸せんと欲す、其改良を欲するの切なるより、敢て此無禮の言をなす、乞ふ諒せよ。

△各自の注意

潔癖家

平町のゴミ函はどれも是も溢れ出して居る誠に汚らはしい、而し町民は此町の掃除費が僅一ヶ月三十圓しかない事も顧慮せなければならぬ、一日一圓足らずの端した金で立派にやれとの注文は無理だ、だから我輩は諸君に一つ相談したい、なるたけゴミを出さないこと、また出たならば夫を成るべく處分し易くしてやること、之を實行したならば現在よりは町が淸潔になろうと思ふ諸君如何ですか

……

太いに本欄の投書を歡迎す但十行以內

雜錄

石炭の話（三）

在石川　K、S生

石炭は其大部分は炭素で、炭化作用の十分なると然らざるとにより、多少の酸化炭素及窒素等の含有するもので、年月を經過するに從ひ、炭素が多量となり、不燃物が減少するのである。

故に時代の新舊により其質の善惡が分るのです、無煙炭は其質最良にして九割以上の炭素を有し、色漆黑で金屬光澤を有し、燃ゆる時は殆烟を發しない、次は黑炭で八割の炭素を含んで居る、黑色脂光にして最需用多き普通石炭である、其次は褐炭泥炭で炭素の含量五割乃至七割程しかないから、色は暗灰若しくは黑褐色で、中には多量の植物纖維をも混合して居る。

石炭は燃料として廣く使用せられて居るとは、皆人の知る所で汽車汽船はもとより、諸機械を運轉せしむる動力となつたり、暖室の燃料となつたり、其最粗雜なる泥炭の如きにありては、前に述べた如く或は燃料となり或は製糸織物の原料となり、或は肥料となるのである。

石炭を乾溜すれば石炭瓦斯ができる、石炭瓦斯は瓦斯燈を始め、瓦斯風呂等の燃料となり、燈火、溫熱又は吾人に利用せらるゝこと多く、而も蒸溜の結果として利用せらるゝものは單り之のみではない、生產物の瓦斯よりも一層必要なる石炭タール液、又はコークス等が副生する。石炭タールは之を百七十度以內の熱度で蒸溜すれば、輕油といふものができて、石鹼香水、香油等に香氣を付けて原料を作ることができ、靑、紫、黃等種々のアニリン染料を作り、或は風邪の時の解熱濟として用ゐるアンチペプリンを作ることができる。

磐陽詞壇

夢想

夕月野名なき小川の岸に立ち流るゝ花をかなしと思ふ　鎌田　鹿島觀骨
故鄕はかすみの奥よ鶯のよく啼く山を一つ隔てゝ　同
白梅の戶により夕淚ぐむ君にもやらん紅筆のふみ　同
朝明の窓うるはしき湯の宿に人とこもれる日を數ひけり　平　菊地珠鄕
岩をつき波を碎きてわだつみの神のかなつるうたきく夜哉　同
二日月ほのかに照りてあばらやの二つ三つ見ゆ出水の中に　同
もの怨む聲に似たりや四十雀の楢の林に夕なく音は　熊町　折笠破狐
雨降る夜胸に手あてゝ夢は何吾が身ほつれて靈光薄るゝ　同
歌題の初句に笑み見る一人居は吾胸描きぬ遠山晴日　同
何となく心さびしき湯の宿や去年の一日の君を思うて　平　横山星淚
遠つ祖が忠義の血潮うけつきし大和男の子はすべてますらを　同
春立ちぬ此山かげの村の家二人住まんによき日またるゝ　平　鈴木耕園
大地は只冷かに我のせて秘めし思ひもとはにめぐるか　同

雜題

芹うりの法界節やはるのあめ　醉骨
先住のこゝろも嬉しうめの花　同
勝雛をいたはりてやる春の水　同
鳥追ひの友まつ頃や思はるゝ　梅里
日の下り婆々の机開く若菜摘　同
風知らぬ雲から降るや春の雨　柳巷
遠くから我が家嬉しき御かな　同
女手のあれしはまぐり計る香　同
梅か香のするや自炊の奢の上　同

黄雲會小集（第四回）

紀元節の夜、田町野老庵に開く、會する者珠鄕、碧雨及び庵主と予と合せて僅かに四名、例に依り運座を催す、『どうも何らしいのがなかつた』とは、皆人の口を突いて出でし嘆なりき（枯生）

題、春雪、歸雁、蛤、出代

蛤のなんの氣焔もなかりけり　珠鄕
蛤に手やはさまれん章魚法師　仝
出代の紅かくしたる[illegible]　仝
小むすめの[illegible]　仝
出代は[illegible]　仝
出代や[illegible]　野老
出代や[illegible]　仝
薄月や[illegible]　仝
時雨煮の蛤うれるはる日かな　仝
山川や[illegible]春のゆきかな　仝
雪解やひさむら雁の歸りけり　碧雨
若草も[illegible]　仝
蛤[illegible]　枯生
出代[illegible]　仝
は[illegible]　仝
平家方の[illegible]　仝
琵琶法師[illegible]　仝

次回課題は[illegible]若草、初雷、[illegible]期日は未定なるも多分三月上旬となるべし、[illegible]し方はいつにても歡迎す、[illegible]出句のみにてもよし、但し締切は來月三日迄の事（枯生附記）

いはき信用案內

最上味噌

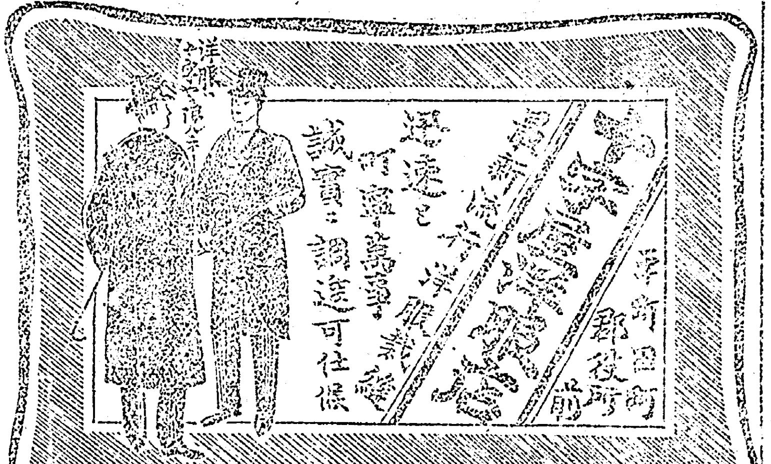
田村郡三春町　釀造元　渡邊平助
平町二丁目　大賣捌　白土屋茂平

機械製麵類大販賣
砂糖荒物國產紙類
白土加本店
雜貨問屋
平町二丁目
白土屋茂平

特撰牛乳

乳質純良
消毒完全
配達迅速

磐城平町北目町
磐城牛乳舍


洋服
郡役所前
迅速と
誠實に調達可仕候

辯護士　林民憲
平町南町二番地
（長木寫眞館東隣）

新聞雜誌書籍卸賣業
東京市京橋區南八丁堀一丁目二十六番地
平陽社
（いはき）特約販賣致候ニ付御注文被下度候
振替貯金口座七四壹

磐城平吉田禮次郎謹製

いぼぢたつこちはしりぢむねのはりかみのけのぬけかうもんのいたみめのたゞれ痔病一切によし

一週間分七貼入　金貳拾五錢

特約販賣店　東京本石町　森田十全堂

縣下大取次
郡山　根本祐太郎
白河　[illegible]
二本松　[illegible]
三春　木村忠助
福嶋　山口保命堂
本宮　若井屋安松
[illegible]
平　佐々木節次郎
[illegible]　新妻重富
[illegible]　只野元藏
新山　佐々木保之助
久ノ濱　白石屋久太郎

ステッキを振て山を下るのを常とした、うれひの時にも、のぞみを與へ、なぐさめ給へり、神はあいなり、我等も愛せん、愛のみ神を。丹後澤のコーラスは唯一度であつた、歌つて了つてから大きな梨子を半分づゝ嚙つて蟬の聲をきゝながら昔の事を語り合た、一枝さんはモー五六日經つと學校へかへらねばならぬといふ、自分も近い中に東京へ往

皮膚病花柳病專門
平町字田町
羽岡醫院

眼科專門
平町字紺屋町
中島眼科醫院

博覽會賞牌受領
內國博覽會銀牌受領
登錄商標
日本
開運
最上醬油

特約販賣店　磐城平町長橋町　篠塚商店

年來の御引立に基く所ニ難有奉感謝候尚一層改善を加へ品質の精良を計り以て御愛顧に酬ひんとす倍舊の御用命奉願上候

醬油

大賣捌所　磐城平町五丁目　大竹商店

財政の現態に就て(中)

在京　比佐昌平

次に戰後經營の一として多大の繼續事業の計畫せられし臨時部に於ては昨年度に比し外務、農商務省に於て四百三十四万圓、陸海軍省に於て(陸軍省の經常部に繰入れたる駐屯部隊費をも合せ)二千三百万圓の減額を見、他は返つて遞信、大藏省等に於て增額し結局差引、一千四百九十八万の減少を來してゐる。

斯くて歳出經常臨時總計、昨四十年度に比して四十八万圓の減少を呈してゐる事である、併しながら、若し夫れ現今の歳出額を十年廿年前のものに對照すれば

明治元年歳出總額	三〇、五〇五、〇八五円
十年歳出總額	五九、三〇八、九五六
廿年歳出總額	七九、四五三、〇三六
卅年歳出總額	二二三、六七八、八四四
四十一年歳出總額	六一五、九六八、三三九

吾々は、その近來に於ける膨脹額の大なるに驚くと全時に他面に於て我國勢發達の狀態を察知する事が出來來るであらう。

飜つて、歳入は如何なる干係にあるやを見んが爲め、經常臨時兩歳入の對比を擧ぐれば

三十六年度	經常部	二四一、一八〇、六九九円
	臨時部	三六、〇四〇、〇五八
	歳入總計	二六〇、二三〇、七五八
四十年度	經常部	四二四、二八五、三一二
	臨時部	一九二、一七〇、〇三三
	歳入總計	六一六、四五五、三四三
四十一年度	經常部	四七〇、五九〇、〇六〇
	臨時部	一四〇、四五二、九八八
	歳入總計	六一一、〇四三、〇四八

本年度の經常歳入を以て卅六年度のそれに比すれば二億四千六百万圓の激增を見るに至り、四十年度のそれに比するも四千六百万圓以上の增收である、其內譯を檢すれば

租税	二九四、五七〇、九四九円
印紙收入	二〇、二六二、四七七
官業及官有財產收入	一四四、二八一、三二三
雜收入其他	一一、四七五、四一二
經常歳入合計	四七〇、五九〇、〇六〇

かく租税、官業及官有財產收入を大財源とせる經常歳入を以て、經常歳出を支辨し尚ほ四千四百万圓の剰餘を生じ、進んで臨時歳出の支辨に充當するを得るが如きは誠に良好なる成績と云ふてよい、是國運の進步民力の發達に伴ふ自然的增加なる事は勿論であるけれども、戰時前後二回の增税の結果なるも記憶すべきことである。

常磐電氣の眞相

常磐水力電氣株式會社其後の經過に就ては世評區々にして定まらず種々なる揣摩臆測を逞しうする者もある模樣なるが今確なる筋より聞得たる所を報導せんに同會社は一昨年末岩崎一、石黒健、早川純三郎、以下廿一名發起人となり福島茨城兩縣內に電燈電力を供給する目的にて株主を募集したるに應募者頗多く昨春第一回拂込を結了したり然るに發起人等は當時經濟界不振の故を以て總會を開かず且定欵には創立費一万四千餘圓なるに六萬餘圓を支出したる旨發表せしかば株主側は大に驚き發起人を促して去五日總會を京橋區山城町工業俱樂部內に開きたる際の如き一時騷擾を生ぜしも委員を擧げて交涉妥協の結果相互の意志疏通し疑團も氷解し八日午後再創立總會を開き左の如く重役を選擧したり

取締役　岩崎一　萩原芳明　武智直道
安島重三郎　関脇龜雄
監査役　岩本述太郎　新井英夫

なほ總會に於て資本金三百五十万圓を七十万圓に減少の件を決し總株數七万株を一万四千株となし減少すべき株式は一部切捨拂戻をなすことゝしたり而して同會社今後の施設事業は先づ石城郡田人村大字南大平なる一木川の水力を應用し發電所を同郡川部村大字山玉地內に設け二百馬力の電氣を得て多賀郡大津平潟町及び石城郡小名濱湯本平の各地方に電燈及電力を供給する事なるが拂込株金二十万圓中創立費に一万五千圓準備行爲に四万七千圓を支出し剰す所十二三萬圓に過ぎざるを以て上記の事業を起すには更に第二回の株金拂込を要するにより株主の多數は現在の資金にて差當り湯本平地方の事業を急施したしとの希望を有し重役も之には同意を表し居れば多分は其實行を見るに至るならんが未だ專務取締役の選任もせず會社設立の登記をも經ざれば工事着手の期は決定せざるも來六月には第一回株主總會を開くべきにより夫迄には確定すべしとの事なり

各町村戸口數(一)

昨年末現在の石城郡各町村の戸口數は左の如し

町村	男	女	計	戸數
鮫川	二、一〇七	一、九七一	四、〇七八	五〇七
神谷	一、六六五	一、五三三	三、一九八	四三〇
赤井	一、五九九	一、五〇〇	三、〇九九	四二三
飯野	一、四六四	一、四六九	二、九三三	三五八
泉	二、〇六四	一、九五〇	四、〇一四	五八七
田人	一、〇四一	一、〇七三	二、一一四	二九〇
荷路夫	二〇六	一七六	三八二	五五
貝泊	一八〇	一六〇	三四〇	四八
石住	一二二	一三五	二五七	三三
永戸	九七四	九〇八	一、八八二	二五一
箕輪	六一三	五〇六	一、一一九	一四五
山田	一、四〇九	一、三八七	二、七九六	三八九
窪田	二、三三八	二、三二六	四、六六四	六四一
川部	一、三三六	一、二二八	二、五六四	三三五
磐崎	二、二五〇	二、一五一	四、四〇一	五〇五
湯本	一、六一五	一、六〇三	三、二一八	五三七
平	七、〇六二	六、四三三	一三、四九五	二、六四〇
鹿島	九九二	八九〇	一、八八二	二二六

鮫川疏水問題

先年築造したる石城郡の鮫川疏水は工事不完全のため其目的を達する能はざるを以て昨年八月中全水利組合會を開きし際も興業銀行より金拾五萬圓を借入れて水路の改繕をなし而して前回の負債は三ケ年間返濟方延期を申込まんとの儀もありしが當時假令一時起債して工を起すも果して將來收支の道を完全に立て得るや否や疑はしく前回の負債をも償還せずして更に起債する程有益の事業なるやも不明なるにより兎も角も關係町村長をして其邊の詳密なる調査を遂げしむる事となり現に調査中なるが其結了次第再び組合會を開き將來の方針を定むる事となり居れるよし

郡農會通常會

石城郡農會にては去廿二日通常會を開き明年度豫算及施設事業に就て協議をなしたるが豫算は約二千圓にして事業は主に前年度の繼續即はち農事改良の督勵樹苗圃設置桑苗圃設置馬耕傳習馬耕競犁會稻模範田設置種苗配付農蠶講習所設置種撰拔競進會同窓會補助町村農會補助等なりと云ふ

○○○○農蠶講習會

石城郡にては宮元田崎の兩農業技手を講師とし去廿三日より江名村に農蠶講習會開設中なるが來る廿九日を以て閉會する筈なり

徴兵檢査日割

福島聯隊區中海岸三郡の徴兵檢査日割は左の如く定められたるが三郡の壯丁數は相馬郡九百〇六人雙葉郡四百八十七人石城郡千百十一人あり抽籤日は相馬郡は原町小學校にて五月十九二十の兩日雙葉郡は全郡役所にて全廿五日石城郡も全郡役所にて六月二三日の兩日に施行すべしと

郡名	徴兵署	檢査日割
相馬	議事堂	自五月十三日至仝十四日
全	原町小學校	自五月十六日至仝十八日
雙葉	郡役所	自五月廿二日至仝廿四日
石城	郡役所	自五月廿七日至六月一日

●●●●●浪江銀行開業●●●●●

既報の如く雙葉郡浪江町の有志家は曩に千葉縣大多喜町の大多喜商業銀行を買收して全町に移したりしが其後組織を變更して株式會社浪江銀行と改稱し去十五日盛んなる開業式を擧げたりしに當日は舊正月十五日に相當せしことゝて近在よりの人出も多く町內頗る雜沓したりと

●●●●●四倉町衛生講話●●●●●

石城郡四倉町劇場四倉座にて去十三日に開かれたる衛生講話及同講習會は非常の盛會にて午前の講習會には四倉草野大浦大野の一町三ケ村內衛生事務關係者六十餘名熱心に聽講し夜の講話會には町內近在よりの來會者八百餘名何れも靜肅に傍聽し多大の感動を受けたり

商議員囑托

植竹磐城中學校長中村石城郡長海野同郡視學遠藤雙葉郡長金子仝郡視學金指相馬郡長今村相馬郡視學等の諸氏は過般平岡本縣教育會長より今春福島市に開催の第九回東北聯合教育會委員並に同大會商議員を囑托せられたり

郡參事會

石城郡にては去十八日より郡參事會を開き明年度豫算及施設事業を議定したりと

醤油撰拔會

石城郡農會にては今春開催の聯合共進會に出品すべき醤油の撰拔會を三月十一日の兩日同郡役所內に於て開かんため出品勸誘中なるが郡內には五十石以上の釀造家三十六戸もある事なれば多分優良なる品を得べしとの事なり

○○入營輜卒○○

石城郡より來る三月一日第七師團に入營する輜重輸卒は平町織田豊太郎一人にして第二師團輜重兵第二大隊に入營するは草野村渡邊孝富小名濱町後田德藏平野理平磐崎村阿部清馬大浦村鈴木勘兵衛鮫川村蛭田龜太郎の六人なり

●●●●農事講習會

既報の如く石城郡農事講習同窓會にては蠶業講習所に於て小田嶋縣屬加賀山縣技手を講師として去八日より十四日迄蠶業組合法及蔬菜栽培法の講習會を開きしに講習生五十五人ありしと

石城郡會開會

石城郡にては郡會を招集し來る廿七日より石城郡役所にて四十一年度の豫算及施設に就て議事を開くよし

相馬軍人團總會

相馬郡各町村在鄕軍人團は聯合して來廿七日中村町に於て相馬郡在鄕軍人團總會を開くべしと

●●●●石炭標準價格改定●●●●

去十二日農商務大臣より告示せられたる改定石炭標準價格中本縣石城、雙葉二郡產のものは一萬斤に付塊炭廿九圓三十二錢粉炭十五圓八十六錢なるが隣縣多賀郡產のものは塊炭卅六圓粉炭十三圓九十九錢切込炭廿二圓十五錢なり

平局取扱數

平郵便局にて先月中取扱ひたる郵便物其他は左の如し

種別	引受數	配達數
通常郵便	五九、七一六通	三五、一四〇通
小包郵便	八八〇個	一、四四四個
電報	一、八八四通	二、二三一通

種別	口數	金額
爲替振出	一、四六八口	二、五七〇、二六六厘
全拂渡	一、〇五六口	三、八八九、四四五厘
貯金預入	一、三九八口	五、五九七、二五〇厘
全拂渡	六〇一口	八、六六〇、四八七厘
振替貯金拂込	一五六口	四、九二七、六六八厘
全拂渡	二〇口	一、四五五、七二〇厘

四倉通信

石城郡四倉町は年々盛に發達し來りて今や戸數八百九十六人口四千二百九十二を有し一ケ年の歳出五千五百餘圓を算するに至れり▲收獲　町民は六分漁業農業商業各二分の割合なるが一ケ年間の漁獲高廿四萬に上り此中鰹節半を占む農產收獲物は三萬円に出でず漁船約二百五十隻あり▲人口增加　昨年末と一昨年末に比すれば本籍に於て百八非本籍に於て四百八を增せり▲奇特者　當町出身者にして當時安積郡々山町に海產物商を營む鈴木宇八氏は頗る教育熱心家にして昨年當町小學校新築の際には率先して金五十圓を寄附したるのみならず當町出身にして福嶋其他にある人々の間を奔走して金百八十圓餘の寄附を取纏めて新築事業を助けたるは眞に奇特なり又菅波角之助氏も教育事業には深き同情を有し昨年中金廿圓を當町小學校基本財產中に寄附したるは美擧と云ふ可し▲警察署　森分署長以下何れも熱心親切にして好評あり▲役場　武藤町長は町民の信賴多く助役以下一同懇切熱心なるを以て事務よく擧り町民頗る信賴せり▲セメント會社　昨夏中工事を起してより着々として進捗し事務所役員住宅等も竣工し又工場の棟上式も先日濟みたるが事業に着手するは多分八月頃なるべし

高久組感狀授與

過般感狀を授與せられたる石城郡高久消防組にては明廿六日平町八幡小路中學校運動場に於て其授與式を擧行する筈なるが當日は附近各町村消防組の檢閲もありとの事なれば定めし壯觀を呈するならん

水產會出席者

去る十六日より東京に開催の全國水產業者大會に出席したる本縣人は相馬郡佐藤數馬石城郡野崎武兵衛雙葉郡久保常助の三氏のみなり

基督教大擧傳道

既報の如く平町日本基督教會にては東京兩國教會牧師星野光多相馬郡原の町教會牧師佐々木純一の二氏を聘し去十七八の兩夜田町教會堂に於て大演說會を催したり前夜は佐々木氏『救の福音』に就て星野氏『基督教の人生觀』に就て說き後夜は佐々木氏『救の實際』と題し星野氏『母なる生命』と題して演べ熱心明瞭なる講演兩夜とも八十餘名の聽に深甚なる感激を與へ新に十數名の求道者を起すの好結果を得たりなほ星野氏は十八日午後三時より磐城中學校講堂に於て同校生徒のために宗教家としての外國旅行談をなしたり

平商工會消息

目下會員募集中なるが入會者續々あるを以て今月末までには百五十名位には達するならん而して來三月第二日曜日には平區裁判所判事を聘し商工に關する法律上の講話を聽く事にすべしと

義勇艦隊講話

有地海軍中將成川同少將の兩氏は去る十九日來平し聚樂館に於て義勇艦隊に關する講話ありしに町內はもとより近在よりの來聽者も多く何れも深き感動を與へられたるが殊に成川少將の海戰談には一同感激せり

無題錄

舊正月の十三日一人の友と四倉濱の火打合を見に往た宿を新町の豊田屋に定めて居る程もなく髪を奇麗にわけた三十五六と覺しい年齡男が宿帳を携ひて來て先づ友の住所姓名年月から職業を鐵道員と記して次に僕が潛まだ云ひせぬのに職業欄には(同)と書いてサッサとたてしまつた予は生れて始めて鐵道員にされた▲或町に路傍の家を借りて居た時外を聞いよがしに呼んで往く者がある「此邊に色々な事の新聞に書くヤッが居るそうだがオイナの方の事など出したらブンナグッテやるぞい」障子を開けて見れば堂々たる縣立學校の制帽を冠だ生徒さん一寸示威運動といふ洒落▲『泣くな〳〵泣くと新聞に出されるぞ此處は新聞屋だから』こんな事を曰て背の子をすかし乍ら店を通り往く子守が有た『新聞』と云ふ聲で子供の泣くのを止めんとする世の中も變てきたものだ

總選擧期日

次の總選擧に關する詔勅は議會閉院の日或は其翌日を以て發せらるべく期日は多分五月十日と定めるべしと

平町人事

▲出生　新川町丹野市藏七男正二(三日)二丁目長瀬延太郎五男悌六(七日)新川町齊藤松次郎七女チル子(十日)▲死亡　田町小林辰三郎妻タキ(六日)鎌田町草野七五之助二男直樹(十三日)同町渡邊豊吉四男守太郎(六日)鍛治町小野哲次甥哲哉全三丁目西牧喜八弟東太(十三日)菅ノ澤菅波新松長女シシ(十日)南町高田紋藏祖母アサ(十四日)▲婚姻　田町仁井田ヒロと岡山縣吉備郡山田村日本喜多治(一月廿六日)紺屋町横田ヨシと仙臺市米ヶ袋戸田耕治(一月十六日)

裁判たより

●二月十日　▲賭博　石城郡平窪村大字上平窪草野廣吉は重禁錮一月罰金五圓●二月十二日　▲窃盜　石川縣金澤市中村外次郎は重禁錮四月監視六月　▲狩獵法違犯　石城郡田人村大字黒田陣野伊之松は罰金廿圓●二月十七日　▲郵便法違犯　雙葉郡熊町村大字夫[illegible]背戸徳之助は科料五十錢▲賭博　田村郡小野新町字本町遠藤傳五郎は重禁錮三月罰金八圓(以上區裁判所)●二月十三日　▲官名詐稱及詐偽取財　雙葉郡長塚村大字鴻草猪井清治は重禁錮一月罰金十圓監視六月(以上平支部之部)

社告

▲本紙第七八號より郵送申上げたる石城郡內の名望家諸君にして未だ代金御拂込下されざる向多く有之候ふが帳簿整理の都合も有之候に付何卒此際御拂込下されたく候

▲代金は小爲替にても亦郵券代用にても苦しからず候但郵券ならは五厘券にて願上候

草野村の幻燈會

石城郡草野村大字下神谷字赤沼青年實業夜學會にては去る八日午後六時より教育軍事の幻燈會を催したり今其概況を報ぜんに會長新妻篤松氏開會の辭を述べ副會長新妻態太郎教育談に就て說明をなし次に小學校長遠藤角彌氏家庭教育につきて熱心なる談話を試み引續き會計廠

向て競爭を申込みつゝあり▲授賞巡査　先般警察務長巡閲の際成績優等にて賞與を授けられたるは髙畑(草野)、髙久(平窪)の兩駐在巡査なり

湯本の涎

昨年中に湯本の遊廓に浮かれ上た鼻の下の長い人數と流した涎錢とを月別にすれば左の如くなり

たるは以て肉食者の漸く增加したるを知るべく古物商質屋の增加も亦一面には生存競爭の暗黒面いよ〳〵加はるを示すものたるべく肉屋の割合に牛乳屋の增さゞるは何故かも注意すべく人力挽子の如き下等勞働者の增加も閑却すべからず而して醫師の數が動かざるに賣藥行商八廿四名を加へたるが

木德太郎(一七)は去十八日午前九時二丁目横町にて卷煙草敷嶋を吹かして居る所を其筋の認むる所となり平署へ引致の上親權者なる紺屋町高木福太郎をも招喚せられ懇々說諭の上放還せられたりとの事なるが少年者及び保護者煙草營業人等は深く注意せざれば喫煙禁止法によりて處分せらるべし

都々逸　歌志廊

主がかなづる琴の音こひて、あける小窓にうめの花
月のなさけに微笑む花のすがたなつかし春の宵

●●●●へなぶり

熊谷の夫婦を斬れるわる者は經盛公の

經常歳入合計　四七〇、五九〇、〇六〇

かく租税、官業及官有財産收入を大財源とせる經常歳入を以て、經常歳出を支辨し尚ほ四千四百万圓の剩餘を生じ、進んで臨時歳出の支辨に充當するを得るが如きは誠に良好なる成績と云ふてよい、是國運の進歩民力の發達に伴ふ自然的增加なる事は勿論であるけれども、戰時前後二回の增税の結果なるも記憶すべきことである。

株主總會を開くべきにより夫迄には確定すべしとの事なり

◉各町村戸口數（一）

昨年末現在の石城郡各町村の戸口數は左の如し

町村	男	女	計	戸數
鮫川	二、一〇七	一、九七一	四、〇七八	五三七
神谷	一、六五五	一、五四三	三、一九八	四三〇
赤井	一、五九九	一、五〇〇	三、〇九九	四三三

て閉會する筈なり

◉徴兵檢査日割

福島聯隊區中海岸三郡の徴兵檢査日割は左の如く定められたるが三郡の壯丁數は相馬郡九百〇六人雙葉郡四百八十七人石城郡千百十一人あり抽籤日は相馬郡は原町小學校にて五月十九二十の兩日雙葉郡は仝郡役所にて仝廿五日石城郡も仝郡役所にて六月二日三日の兩日に施行すべしと

……

◉農事講習會

既報の如く石城郡農事講習同窓會にては蠶業講習所に於て小田嶋縣屬加賀山縣技手を講師として去八日より十四日迄蠶業組合法及蔬菜栽培法の講習會を開きしに講習生五十五人ありしと

◉石城郡會開會

來る廿七日より石城郡にては郡會を招集し四十一年度の豫算及施設に就て議事を開くるべし

に寄附したるは美擧と云ふ可し▲警察署　森分署長以下何れも熱心親切にして好評あり▲役場　武藤町長は町民の信頼多く助役以下一同懇切熱心なるを以て事務よく擧り町民頗る信頼せり▲セメント會社　昨夏中工事を起してより着々として進捗し事務所役員住宅等も竣工し又工場の棟上式も先濟みたるが事業に着手するは多分八月頃なるべし

[illegible]の家を借りて居た時分を聞かせよ[illegible]呼んで往く者がある『此邊に色々な學の新聞に書くヤツが居るぞ』[illegible]事なぞ出したら[illegible]子を掛けて見れば堂々たる獨立學校の[illegible]

◉總選擧期日

次の總選擧に關する詔勅は議會閉院の日或は其翌日を以て發せらるべく期日は多分五月十日と定めるべしと

◉平町人事

▲出生　新川町丹野市藏七男正一（三日）二丁目長瀨延太郎五男悌六（七日）斯川町齊藤公次郎七女チル子（十日）▲死亡　田町小林辰三郎妻タキ（六日）鎌田町草野七五之助二男直樹（十三日）同町渡邊豐吉四男守太郎（六日）鍛冶町小野哲次甥哲哉仝三丁目西牧喜八弟東太（十三日）菅ノ澤菅波新松長女シン（十日）南町高田政藏祖母アサ（十四日）▲婚姻　田町仁井田ヒロと岡山縣吉備郡山田村日本喜多治（一月廿六日）紺屋町横田ヨシと仙臺市米ヶ袋戸田耕治（一月十六日）

◉裁判たより

●二月十日▲賭博　石城郡平窪村大字上平窪草野廣吉は重禁錮一月罰金五圓●二月十二日▲窃盜　石川縣金澤市中村外次郎は重禁錮四月監視六月▲狩獵法違犯　石城郡田人村大字黒田陣野伊之松は罰金十圓●二月十七日▲郵便法違犯　雙葉郡熊町村大字大[illegible]青戸德之助は科料五十錢▲賭博　田村郡小野新町字本町遊藝傳五郎は重禁錮三月罰金八圓（以上區裁判所）●二月廿三日▲官名詐稱詐僞取財　雙葉郡長塚村大字鴻草鴻井滿治は重禁錮一月罰金十圓監視六月（以上平支部之部）

◉社告

▲本紙第七八號より郵送申上げたる石城郡内の名望家諸君にして未だ代金御拂込下されざる向多く有之候ふが帳簿整理の都合も有之候に付何卒此際御拂込下されたく候

▲代金は小爲替にても亦郵券代用にても苦しからず候但郵劵ならば五厘劵にて願上候

▲本社にては各町村に通信員を募集致すべく候間希望方は最近の出來こと二三件を書いて送られたく囑托の上は相當の報酬を呈すべく候

◉種痘後の注意

近頃天然痘が各地に蔓延し本縣でも會津地方に發生しましたので其筋では熱心に種痘を勵行して居るようでありますが今醫師に就て聞き得たる種痘後の注意を御知らせ申します▲こするな○○○　種痘した痕か痒いからとてこすることは大禁物です入浴はしない方が善いのですが若し入浴しましても成るべくこすらぬように注意が必要です▲過劇の運動○○○　種痘後はなるたけ身体を安靜にし過劇な運動はよした方が宜しい▲附いた時○○○には入浴はせぬのが宜しいもし中へ水や湯が入り不潔物のつかぬように注意する事が肝腎です又痒いからとて掻き破ることなどは深く愼まねばいけませんまづ是れだけの事を注意すれば大した誤りはありませぬ

◉平驛運輸概況

昨年十二月及本年一月中に於ける平驛運輸概況左の如し

區別	十二月	一月
旅客乘車人員	三、四一三人	三、二六六人
仝降車人員	三、八六六人	三、五六六人
仝乘車賃金	四、〇三〇、七九錢	三、八〇四、八七錢
仝通行税	一六四、三〇錢	一六八、一四錢
仝不足賃金	三、四四錢	二、六五錢
發送手荷物	四四個	五一個
仝無賃手荷物	四七八個	四三〇個
仝手荷物賃金	二、三〇錢	九、〇一錢
仝小荷物個數	八五七個	七五七個
仝賃金	一五三、三八錢	一三八、五六錢
仝通常扱貨物	四二六屯	四三三屯
仝貨切扱貨物	八、八八〇屯	一、七三七屯
仝速達扱貨物	四八個	一七六個
仝貨物運賃	一五、五二八、九三錢	一九、七四四、三三錢
發着手數料	二、〇五二、〇三錢	二、四〇四、四八錢
到着通常扱貨物	七三九屯	七四三屯
仝貨切扱貨物	二、〇四八屯	二、二五五屯
仝速達扱貨物	一〇〇個	六七個
應用石炭發送數量	四、二六九屯	四、三一七屯

◉草野村の幻燈會

石城郡草野村大字下神谷字赤沼青年實業夜學會にては去る八日午後六時より教育軍事の幻燈會を催したり今其概況を報せんに會長新妻壽松氏開會の辭を述べ副會長新妻熊太郎教育書に就て說明をなし次に小學校長遠藤角彌氏家庭教育につきて熱心なる談話を試み引續き會計廳原勝衛彌塚富太郎外會員數名は教育書につき在郷軍人鈴木某は日露戰爭書につき各熱心に說明し聽衆に深き感動を與へたり當夜の會衆は四百以上に達し非常の盛會なりし

◉四倉の火打合

舊暦十二三四の三夜四倉町にては例により其海濱にて火打合を行ひたり毎夜とも七時半頃になれば青年者は各薪を運び行いて海濱數ヶ所に焚火をなし半ば燃えたる薪を手にせる若者は中町なるは西に新町なるは東に陣取り互に睨みて相接近するや狙ひ定めて敵に投付け相爭ふこと十數合かくて三夜とも最後の勝は中町組のために占められたり此壯觀なる火打合を見物せんとて近郷近在はもとより或は平町の濱邊よりわざ〳〵見に來し者もありて海岸には見物人黑山を築き四倉町は深更に至るまで非常の賑ひなりしと

◉大火三週年

去十八日は平町大火災の第三週年紀念に當れるを以て平町有志者は縣社子鍬倉神社に集まりて紀念祭を執行したり

◉四倉警察署事故

▲昨年度犯罪件數　一月五件二月六件三月十三件四月十件五月廿三件六月七件七月六件八月十九件九月十四件十月十三件十一月八件十二月二件合計百二十八件なり此外違警罪百十八件あり而して違警罪は交通衛生風俗に關したるもの多く其他小窃盜多し▲料理店飲食店　町内には料理店十三飲食店十一酌婦十八人水仕女三十二人あり旅人宿は大抵料理店を兼營す▲火災狀況　昨年度中に於ける同分署管内の火災度數は十九回にして損害高一萬四千五百七十三圓廿五錢燒失六十七軒百三棟あり▲消防成績　管内の消防は八組あり其中神谷大野の二組は金馬簾を有し之に次ぎ成績良好なるは四倉組及大浦組なるが此の兩組にては孰れが早く金馬簾を授けらるゝかと競爭中にて大浦組の如きは四倉組に向て競爭を申込みつゝあり▲授賞巡查　先般警務長巡閲の際成績優等にて賞與を授けられたるは高畑（草野）、高久（平窪）の兩駐在巡查なり

◉湯本の涎

昨年中に湯本の遊廓に浮かれ上た鼻の下の長い人數と流した涎錢とを月別にすれば左の如くなり

一月	三九一、九〇円	二〇二人	七月	三九九、四〇円	二二三人
二月	三五五、三〇	一八〇	八月	二〇九、〇〇	一三一
三月	三八五、六〇	一九八	九月	二五〇、〇〇	一五五
四月	三六五、〇八	二三三	十月	二六五、〇三	一九六
五月	三二〇、五〇	二三五	十一月	二〇〇、一五	一五六
六月	三六〇、五八	二〇四	十二月	二三〇、三〇	一三三
計	三、六一六、六二	二、三二六			

◉湯本の乘降客

昨年中湯本停車場より昇車したる總人員は六万九千四百七十七人にして降車したるは七万二千四百廿九人なりし

◉諸營業者の增減

人口の增加事業の勃興其他社會各方面の發達進歩に伴ひて諸營業も亦消長を免れざるが平警察署管内に於て昨年末と一昨年末とは各種營業に就て如何なる增減あるかは左の表によりて明かに知るを得べし

營業名	一昨年末現在	開業	廢業	昨年末現在
質屋	一一	六	五	一二
古物商	二〇八	四五	一九	二三四
染物職	二	｜	｜	二
屠畜業	三	｜	｜	三
鳥獸肉販賣人	[illegible]	[illegible]	三	三五
牛乳販賣人	三	一	｜	四
火藥庫	五	｜	｜	五
湯屋	三三	三	｜	三六
狩獵人	五七	六〇	五七	六〇
人力車	六五	二四	一六	七三
同輓子	八三	三三	九	一〇七
荷車	七七	一六〇	一七	二二〇
理髪業	八五	三三	一〇	一〇八
賣藥行商	三六	二九	五	六〇
醫師	三五	一	一	三五
按摩	四三	三	三	四三
旅人宿	二六	三	八	二一
木賃宿	三九	四	四	三九
娼妓	一一	三	五	九
藝妓	八六	八四	七五	九五
料理屋	六三	五	五	六三
酌婦	四三	一四八	一三九	五二
飲食店	一〇七	二七	三	一三一

大抵は世の進歩に連れて增加しつゝある中にも荷馬車が俄に百五十臺を增したるは最も注意すべく鳥獸肉販賣人二十二人を增したるは以て肉食者の漸く增加したるを知るべく古物商質屋の增加も亦一面には生存競爭の暗黑面いよ〳〵加はるを示すものたるべく肉屋の割合に牛乳屋の增さゞるは何故かも注意すべく人力挽子の如き下等勞働者の增加も閑却すべからず而して醫師の數が動かざるに賣藥行商人廿四名を加へたるが如き旅人宿料理店等は增さずして飲食店十四を增したる如き又藝妓酌婦各九人を增し乍ら一方十一人の娼妓より二人を減じたる如き孰れも識者の一考を要すべき所なるべし

◉箕輪村の紛紜

鑛泉を以て其名高き石城郡箕輪村大字高野はよく紛紜の絶えざる村なるが近來また〳〵紛騷を生じ裁判警察等の手を煩はしつゝあるが此事件に關係せる村會議員高萩善作高萩アキ鹿又ヒサ仝善太郎長谷川茂彌小沼久吉高萩駒吉仝爲吉仝久治等十數人の行動に就ては本社の探聞したる所多きも醜穢筆にするだも厭はしきあり、また一方刑事々件となりて決定せざる所もあるを以て暫く事の成行を眺めたる上他日改めて降魔の劍を醜類の頭上に加ふることあるべし

◉有毒玩具

平町二丁目大森喜八方にて販賣し居たる玩具のゴム毬は鉛丹を使用して毬色を加へ有毒なるを以て其筋より發賣を禁止されたるよしなるが他にも此類の物なきを保し難ければ愛とし子を有つ親達はよく撰擇に注意せらるべし

◉後家の嫉妬

石城郡内郷村大字御廐細川豊治の母いそと云ふは去三十六年夏中夫久次郎死亡してより情夫をこしらひて不義の快樂を貪り居りしが昨年春の頃豊治が同郡赤井村本田兼治の娘キウを妻に迎ひて夫婦中ひどく睦ましきを見て嫉妬の角のはやして豊治夫婦を苛める事一通ならずれキウは辛さに堪へずして昨年十一月中實家に逃げ歸りし後には毎日親子喧嘩の止むことゝてなきを見兼ねたる隣家の新作忠治の二人が遙々赤井村に行きてキウをつれ歸りしもイソが毎日の八つあたりには若夫婦二人は安き思ひもなくれ正月早々キウなどは淚に掻きくれ居るとの投書のまゝ

◉禁烟法違犯

平町字紺屋町理髪職人三木德太郎（一七）は去十八日午前九時二丁目横町にて卷煙草敷嶋を吹かして居る所を其筋の認むる所となり平署へ引致の上親權者なる紺屋町高木福太郎をも招喚せられ懇々說諭の上放還せられたりとの事なるが少年者及び保護者煙草營業人等は深く注意せざれば喫煙禁止法によりて處分せらるべし

三面文藝

●●●新川柳

題　思、夢、（一）

、おもひ掛けない懸賞に當籤し　新茂
▲思切れぬとダヾこねる若旦那　仝
、ひさし髮理想の良人夢みて居　仝
、初夢に丈は黄金も持つのなり　仝
○夢を見た樣な素振で夢を說き　山吹
△モー思ふまいと思ふが思なり　仝
△初夢見女房こぎ出すたから船　仝
、拙な思案畢竟は敗となるの也　仝
▲夢さめてア、夢だなと落膽し　炭塊
▲女學生のはつ夢新婚旅行なり　仝
▲思た程理想の妻にあらざりき　仝
、寢小便だけは實なり夢のうち　仝
▲夢でも善ウント喰たいと居候　是空
▲思案ばし平氣でわたる三代目　仝
○禁酒當座すこぶる沈思默考し　仝
▲思たより亭主やさしい男なり　仝
▲夢では無か抔と寢言を若旦那　無物
○物思ひ姫は指輪をなぶつて居　仝
○朝かへり今度こそはと思へ共　仝
○追羽子も思はせぶりな遊女町　仝

次號課題　平○町○に關したるもの

○懸○賞○冠○句○附○狂○句○募○集○

題　○いそがしい、○はらはら○、○きかぬ○

○、○には何字をあつるもよし

四句一組入花料金壹錢

締切二月盡日　三月十五日のいはき紙上にて發表すべし

景品　天地人及五光へ美景呈上

屆所　平白銀町いはき社　平二丁目豐島屋方孰れにてもよし

ラッパ節　戀竹林

春はうれしいた城山、
東風に梅さへほころびぬ、
主のたもとにわが袖も、
花のかほりのしみ〳〵と。

都々逸　歌志廊

主がかなづる琴の音こひて、あける小窓にうめの花

月のなさけに微笑む花のすがたなつかし春の宵

●●●へなぶり●●●

熊谷の夫婦を斬れるわる者は經盛公の子孫にやあらん　四倉　山王

窪町も長坂もある閒なるに平とはチトロジックに合はず　仝

通りゆく旅人のうたよく聞けば『人の惡いは磐城の平』　仝

投書函

▲桝内代書人の書いた書類でないと兎角難癖をつける役所には困る（平民）▲大通子さんあたいが久し振で瀧川さんとの差向ひがそんなに羨ましいのあなたも御遠慮なしに入らつしやい差向ひ珍鴨でもちらでもいゝわ（玉川の美佐子）▲藥品などを入れた硝子瓶の臭氣を去るには木炭末と水とを程よく入れて振るのが便法です（先生）▲下手にブツて二度目⊙赤鬼に見付けられぬ中に止めて大事の家業に勵んだ方が君の爲めだと思ふがネー工藤さん（御意見生）▲歌留多狂の色男さんあんまり己惚が增長すると大事のしげちやんに肱鐵となりますよ（一寸坊士）▲石山君の昇進の裏面は怪しいものだ（憤慨生）▲軍用パン一食分に恭しく水引を掛け鹽屋呉服店へ年始に持て行たのは鍋屋の旦那とやら（お正月）▲私は近頃おキク樣に百度ナツ子樣に九十五度コト樣に九十九度の大熱で難澁して居りますが適當な解熱劑はないでせうか（色男）▲駈出しの草餅には及びつかぬような凄腕の土娘が紺屋町邊にもあるそうだ（山田春子）▲いやな連れがあつて十六日の芝居見物は思ふように樂しめなかつたわ（こここ）

『いはき』の廣告は特別割引を以て御相談いたすべく候に付續々御申込み下され度候

廣告主任
久保木民之助

五十三番（下）

太郎生

一枝さんはあはれな女である、阿父さんは發狂し、獸のように鐵の鎖で繋がれて居る、阿母さんは側には居ない、祖父さんも祖母さんもミゼラブルな境遇にある、其中から女子師範の生徒となつて居るか、感じの深い人だけに、人一倍、自己の境遇のみじめなのに頭をいためて、遂に自分の身体をわるくした、いつでも蒼い顔をして居る、聲に張がない、談話をすればすぐ下を向く、自分の要求を思ひ切て言ひ出せない、こんな風な處が、自分から見れば一層同情を引くので、多少、他人の疑惑を受けながら、毎日のように、城山の小屋を見舞ふのである、いつの間にか、一枝さんの讃美歌が、自分にも傳染して、二人の談話が途切れると、定つたように此歌を唄ふ、自分は無暗に神だとか、信仰だとかを口にするのは嫌いである、解りもせぬ事を解つたように喋べるのは輕薄才子のする事だとは、思つて居るが一枝さんの前では理屈は禁物、此哀れな弱い女に、神を信ずる事のできるのはせめてもの救極である、自分は（若し神樣があるならば）神樣に感謝する、一枝さんはクリスチャンである、神の事を語る時には、平生の内氣に似ず快談縱横である、ヨブの話は何遍聞かされたか知れぬ、自分は雅歌とアモスが好きだと云ふと、一枝さんは默まつて赤い顔をする、祖父さんは怒鳴て居る、鐵の鎖がガチャ〳〵、祖父さんは時々咳拂ひをしながら、繩を綯て居られる、自分は西日のあか〳〵とさしてくる頃に、ステッキを振て山を下るのを常とした、

うれひの時にも、のぞみを與へ、
なぐさめ給へり、神はあいなり、
我等も愛せん、愛のみ神を。

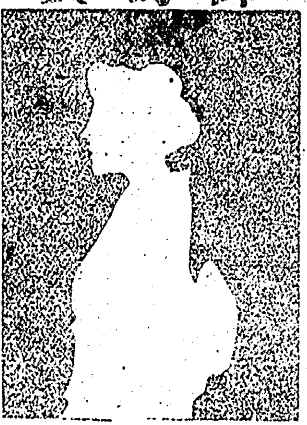
丹後澤のコーラスは唯一度であつた、歌つて了つてから大きな梨子を半分づゝ噛つて、蟬の聲をきゝながら昔の事を語り合た、一枝さんはモー五六日經つと學校へかへらねばならぬといふ、自分も近い中に東京へ往つて仕舞ふ、圖らずも邂逅ふた二人の幼な馴染は再び南北に別れねばならぬ、夢の中で逢ひ、夢の中で別れると思へば何でもないが、五十三番の歌は忘れられぬといへば、私もよと云ふ、一枝さんは梨子の皮を剝きつゝある、クル〳〵とナイフに從つて、美しく渦を卷いて垂れる、渦卷く皮の地につく時に、一枝さんの手はピタリと止まつた、ボタ〳〵と涙が落ちる、露草が薄紫に咲いて居る、眠つて居た螢がおどろいてプイと飛ぶ、ガチャ〳〵と蟬が鳴き出した、

世はうつり行けど、惠みの光、
永刧にぞ輝く、かみは愛なり、
我等も愛せん、愛のみ神を、

あゝ其時が此世の別れであつた、弱い一枝さんは肋膜に病つた、福嶋の氣候は癆瘵質の人に惡い、一年餘りわづらつて、トウトウ神の御許に召された、阿父さんも死だ、祖父さんはやつぱり繩を綯て居るだらう、『世は移りゆけど恩惠の光』薄暗い下宿屋の六疊でひとり、此歌を歌ふ自分は、經驗論者たるに關せず、永遠無窮神の大愛が、此のあはれなる乙女の上に、光被せんことを希望せざるを得ない。（終）

廣告

御寫眞



平町字南町
青木寫眞館
一割引券

產科婦人科
皮膚病花柳病專門
平町字田町
羽岡醫院

眼科專門
平町字紺屋町
中島眼科醫院

登錄商標
KAMENOTOSHI
TRADE MARK
龜ムスク石鹸

東京深川西森下町
龜岡謹製
電話浪花（四八六番）

内科小兒科
外科婦人科
宅診午前
往診午後
入院隨時
平町
鈴木醫院

内外科
小兒科
婦人科
平町搔槌小路
磐城醫院
神尾精一

内科外科
小兒科診療
平町搔槌小路
市原醫院
院主　市原卯太郎

黴毒痳病膀胱病
小兒病專門
雙葉郡長塚
石川醫院
平町字田町郡役所西隣
同　平出張所

釀造元
茨城縣高濱町
羽成卯兵衛
米國大博覽會賞牌受領
第五回内國博覽會銀牌受領
登錄商標
日本
開運
最上醬油
特約販賣店
磐城平町長橋町
篠塚商店

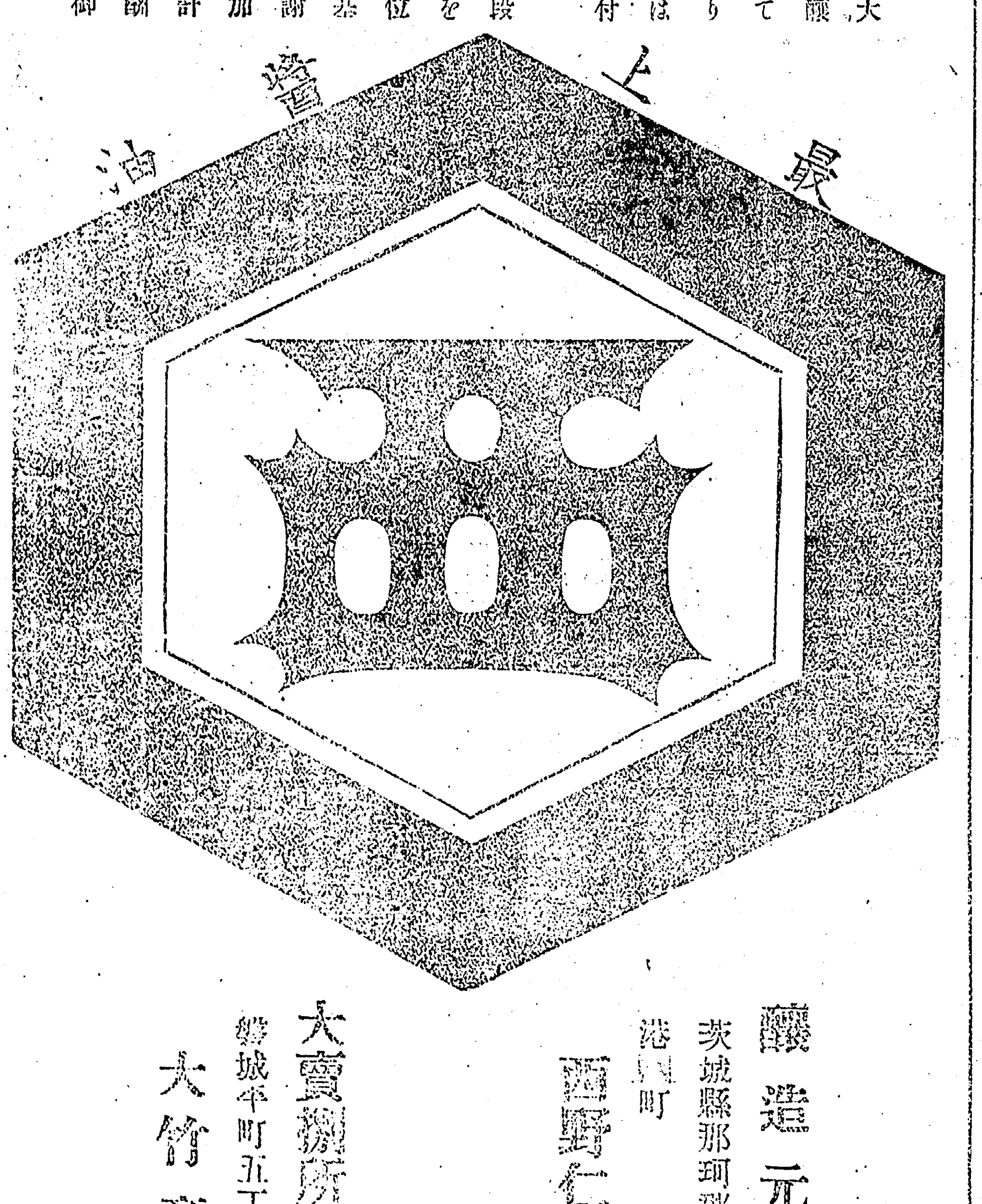
内科
婦人科診療
平停車場前
北郷醫院

遠藤齒科口腔病醫院
平町五丁目
出張所
湯本佐波太館
四ツ倉字本町

洋菓子問屋
東京市日本橋區馬喰町四
田中喜十郎

謹告

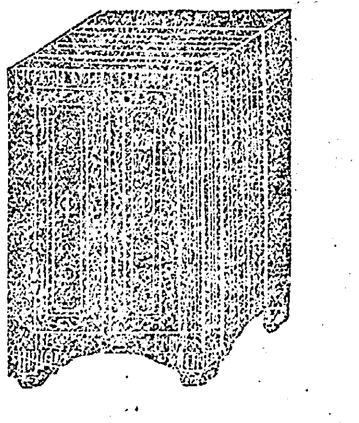
過般本縣下特別大演習に就て醬油釀造業奬勵者として大元帥陛下より特に召出しを賜はり破格の拜謁仰付けられ優渥なる御諚を賜はり候段擧家無上の光榮を得たるは偏に各位年來の御引立に基く所と難有奉感謝候尚一層改善を加へ品質の精良を計り以て御愛顧に酬ひんとす倍舊の御用命奉願上候



釀造元
茨城縣那珂郡湊町
西野仁兵衛
大賣捌所
磐城平町五丁目
大竹商店

諸官衙各銀行會社御用
漆塗
製造堅牢手提金庫

火災保險附



鐵製藏庫特別
廉價販賣仕候
寸法價格表御報知次第進呈す

金庫の効用は火災盜難の防備の安全を主とし需用の各位
實地の成績に御注目を乞ふ
下野特產金庫製造販賣元
栃木縣宇都宮市大工町
吉田虎之助
振替貯金口座第四五〇壹番（電話四百七番）

特約大販賣
岩代國桑折北町
銅鐵砂糖金庫商
大沼平兵衛
（電信略號ヌへ）

特約大販賣
磐城平町五丁目
和洋銅鐵金物金庫
諸橋久太郎
商號釜屋

（明治四十年五月廿五日第三種郵便物認可）

いはき

第十九號

毎月三回　五日　十五日　廿五日　發行
定價一部金一錢五厘外ニ郵稅五厘
郵券代用一割增
廣告料五號活字十九字詰一行金十五錢回數行數ニヨリ割引ス
發行所　福島縣石城郡平町字白銀町二番地　いはき社
編輯人高木[illegible]　發行人吉田禮次郎　印刷人高城[illegible]

…言…論

…に定まれば各校規の支配を受くるを以て避…
…喧同情の念に富み愛郷の情に厚き我が石城…

石炭は其大部分は炭素で、炭化作用の十分なると然らざるとにより、多少の酸化炭素及窒素等の含有するもので、年月を經過するに從ひ、炭素が多量となり、不燃物が減少するのである。故に時代の新舊により其質の善惡が分るのです、無煙炭は其質最良にして九割以上の

雜題

芹うりの法界節やはるのあめ　降骨
先住のころも嬉しうめの花　同
勝雞をいたはりてやる春の水　同
鳥追ひの友まつ頃や思はるゝ　梅里
日の下り淡々の机開く若菜摘　同
風知らぬ雲から降るや春の雨　柳巷
遠くから我が家嬉しき柳かな　同
女手のあれしはまぐり計る音　同
梅か香のするや自炊の飯の上　同

新聞雜誌書籍卸賣業
東京市日本橋區南八丁堀一丁目二十六番地
平陽社
振替貯金口座七四壹
（いはき）特約販賣致候ニ付御注文被下度候

磐城平吉田禮次郎謹製
いぼぢ　たつこぢ　はしりぢ　むねのはり　かみのけのぬけ　かうもんのいたみ　めのただれ　痔病一切によし
一週間分七貼入
特約販賣店
東京本石町　森田十全堂
縣下大取次
郡山　根本新太郎
[illegible]

辯護士
平町南町二番地
林民憲
（眞木寫眞館東隣）